

2019年4月12日

各 位

会 社 名 株式会社アイロムグループ
代 表 者 名 代表取締役社長 森 豊隆
(コード番号 2372 東証第一部)
問 合 せ 先
役 職 執行役員
氏 名 小島 修一
電 話 03-3264-3148

当社子会社によるサイアス株式会社との iPS 細胞作製技術に関するライセンス契約締結のお知らせ

当社の100%子会社である株式会社IDファーマ(以下、「IDファーマ」という)は、同社が所有するCytoTune®-iPS(※1)を用いたiPS細胞(※2)作製技術について、サイアス株式会社(以下、「サイアス」という)とライセンス契約を締結したことを下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 契約の概要

契約の概要は以下のとおりです。

許 諾 内 容	① CytoTune®-iPS の技術を用いた iPS 細胞の作製 ② ①によって作製された iPS 細胞を用いた分化細胞の作製 ③ ②で得られた iPS 細胞由来分化細胞の内部研究への使用
独 占 権	非独占
対 象 地 域	日本
契 約 金 等	年間使用料

2. 契約の意義

IDファーマのiPS細胞作製技術は細胞の染色体を傷つけることなく、かつ効率よくiPS細胞が作製できるため、様々な疾患の患者様由来の血液や組織から、iPS細胞および多種多様な分化細胞を作製することに最適であると考えられています。そのため、同技術は、iPS細胞から作製した分化細胞を用いた研究開発に広く使用されています。

サイアスは、本契約に基づきIDファーマのiPS細胞作製技術を用いて作製したiPS細胞から分化細胞を作製し、その分化細胞をがんを対象とした治療に応用することを目指しています。

IDファーマは、本契約のようにCytoTune®-iPSを活用したiPS細胞等の作製とその利用を許諾する契約の締結を推進しています。そのような取り組みにより基盤技術であるセンダイウイルスベクターを用いた新たな事業機会を創出できるものと考えております。

3. 技術実施許諾先について

技術実施許諾先の概要は次のとおりです。

会社名	サイアス株式会社 (Thyas Co. Ltd.)
本社所在地	京都市左京区吉田下阿達町 46-29 京都大学医薬系総合研究棟
ウェブサイト	http://thyas.co.jp/

サイアスは、京都大学 iPS 細胞研究所 (CiRA) の金子新 准教授が開発した基盤技術のがん治療への臨床応用を目的として設立されました。サイアスでは、がん患者様のがん組織中または血液中の T 細胞の中から、その患者様のがん細胞が発現するがん抗原特異的なキラー T 細胞を分離し、iPS 細胞に初期化したのち、再分化させたキラー T 細胞を治療に用いる、自家の細胞免疫療法の開発に

取り組んでいます。現在、多くの優れたがん治療手段が見いだされていますが、それでも治療方法のないがんや既存治療耐性や再発するがんが多く認められます。iPS 細胞技術を取り入れたサイアスの再生医療等製品は、有効な治療法のないがんを含めて多くのがんに効果を発揮するものとして期待されています。

※1. iPS 細胞作製キット CytoTune®-iPS

CytoTune®-iPS は、京都大学の山中伸弥教授の iPS 細胞作製技術と、ID ファーマのセンダイウイルスベクター技術を融合させて開発した iPS 細胞誘導キットであり、本キットを用いることにより、一回のベクターの使用で線維芽細胞などの体細胞から iPS 細胞を効率よく誘導することができます。特にヒトに大きな苦痛を与えずに採取できる末梢血・血液細胞からの効率的な誘導が可能であり、他の方法と比べて優れた性能を有しています。さらに本キットを用いて作製された iPS 細胞は、元の細胞の染色体上の遺伝子配列を無傷にそのまま維持しており、また iPS 細胞誘導に用いたベクターが細胞から素早く消失されるよう改良されているため、国内外の研究者から高い評価を受けております。

※2. iPS 細胞

induced pluripotent stem cell (人工多能性幹細胞)のことであり、体細胞に特定の遺伝子を導入することにより樹立される、ヒト等のあらゆる組織、細胞に分化する能力を持つ幹細胞のことです。

以 上